

生徒に感動を与えられる存在でありたい

「模様が手縫いできれい」「でもちょっと寒いね」

少し気恥ずかしそうな表情を浮かべた生徒たちが着ているのは、世界の民族衣装。ベトナム、インド、マレーシア、タイ、ケニア、サモア、グラテマラー、7カ国の色とりどりの衣装によって、教室はたちまち異国の雰囲気漂う空間へと様変わりした。

ここは、約700人の生徒が通う埼玉県立新座柳瀬高校。昨年12月、3年生を対象にした「ファッション造形基礎」の授業として世界の民族衣装体験が行われ、生徒たちはお互いに写真を撮り合い楽しんだ。「タイの少数民族の衣装を着ましたが、装飾が細かくて凝っていると感じました」と話すのは、将来は海外でアパレル関係の仕事に就くことを夢見る山田昇太郎さん。同じくアパレル業界を志している山田優綺さんは、「遠い存在

だった海外を身近に感じる事ができました」と話す。

興味津々な生徒たちを前に教壇に立つのは、家庭科の関美奈子先生だ。「今日はこの格好で家から学校まで来ました」と笑顔を見せる関先生は、日本の着物姿で授業に臨んだ。関先生は青年海外協力隊として、2006年からサモアに2年間、13年からグアテマラに2年間と2度の派遣を経験した。そんな自身の経験を交えながら、家庭科の授業では日本だけでなく世界の衣食住について伝えていく。この日の授業でも、地域の気候や文化によって着る服は異なること、イسلام教では肌の露出を嫌うため、マレーシアの衣装は袖やスカートの丈が長いことなどを説明した。

周りに協力隊に参加したことがある友人が多く、自然と自分も憧れるようになったという関先生。教員になりたてのころは仕事が忙しく、なかなかチャンスが訪れなかったが、2校目の赴任先での出来事が協力隊への思いを後押ししたという。「その学校でも、なんと同僚の家庭

科教員2人が協力隊の経験者でした。その1人が、ケニアの孤児院で行った活動

について授業で紹介したところ、生徒たちに大きな感動を与えたのです。すると、その話を聞いた保護者も関心を持ち始め、文化祭で講演会が開かれることになり、その後、学校で寄付を募って孤児院に届ける動きにまで広がりました。私も教員として幅を広げなければという思いが高まった出来事でした」

未知の地で栄養改善に奮闘

家政隊員として派遣された関先生の隊員生活は、予想外の展開で幕を開けた。「当時はサモアに家庭科の科目が導入されてからまだ1、2

世界とつながる教室

世界共通の衣食住の大切さを伝える

埼玉県立新座柳瀬高校では、青年海外協力隊に2度参加した先生が家庭科を教えている。世界を見てきた彼女が伝えているのは、どこの国でも、衣食住は健康で幸せな生活を送るために大切であるということだ。



家庭科の関先生。休みの日は着物で過ごすことが多く、「若い世代にももっと着物を着てもらいたい」と話す

年で、現地の教員の育成が任務の一つでした。ところが、到着する直前に現地の家庭科教員が海外に出稼ぎに行ってしまう、いきなり私が授業を担当することになったのです。当時のサモアでは、海外からの援助として届くインスタントラーメン、砂糖、油が食生活の中心で、糖尿病や肥満が問題となっていた。そこで、関先生は現地にある食材を使った調理実習を通じて、栄養バランスの大切さを教えることにした。また、半年がたったころには、誰にも使われずに放置されていたミシンを活用し、服作りの指導も始めた。「料理や裁縫の楽しさが伝わったのか、家庭科教員を目指して大学に進学した生徒もいました」と関先生はうれしそうに振り返る。

サモアから帰国して5年後、関先生は、飢餓や感染症などの過酷な状況下にある国についても深く知りたいと思い、再び

協力隊に参加することを決めた。派遣されたグアテマラの村で取り組んだのは、毎日小学校で提供される軽食メニューの栄養改善だ。現地の食生活はトウモロコシ、豆、砂糖を多用する偏ったものだったため、現地で豊富に採れる野菜や卵などを生かしたメニューを考案。これが反響を呼び、最終的には20校以上で活動を展開するようになり、メニューの試食会や、学校対抗のコンクールも開催された。軽食メニューを改善した学校では、実際に子どもたちの身長伸び率が上昇するなど、数字としても効果が表れた。

関先生は、「協力隊の活動を通じて感じたのは、食は人なり」という言葉通り、健康な人生を送るために食生活は何より大切で、それは日本も世界も変わらないということだ」と話す。現在、新座柳瀬高校の家庭科では、栄養や食の安全についてはもちろん、世界の伝統的な料理の調理実習や、サモアでの経験にヒントを得た、インスタントラーメンをアレンジした栄養改善メニューの紹介など幅広い授業を展開している。



家庭科の調理実習では、トマトとほうれん草を使って、インスタントラーメンをバランス食に変えるレシピを教えた

グアテマラの小学校での軽食の時間。みじん切りにした野菜をふんだんに入れたオムレツが子どもたちに大好評



関先生が授業を担当したサモアの子供たち。新聞紙で作ったかぶとかぶって大はしゃぎ



世界の民族衣装を着た生徒たち。それぞれによって特徴があることを肌で感じる体験となった